

平成27年10月15日

中国合弁会社設立について

旭興産株式会社

当社は2012年に、中国の上海に子会社上海愛来音自動化設備有限公司を設立し、日系企業を中心に自動化設備などの設計製作を行ってきました。今回、この子会社を発展的に解消し、中国企業と安川電機中国、及び旭興産の3社の合弁会社を設立することに致しました。

新会社「安徽預立興川機器人技術有限公司」は安徽省馬鞍山市に本社を置きます。この会社は、安川電機のロボット技術、旭興産のロボットを中心とする自動化システム設計製作技術、中国企業である安徽預立精工科技有限公司（以下預立）及びそのグループ会社である鑛翎機械工業（上海）有限公司の機械加工分野での技術力と営業力を生かして、バリ取り研磨などの機械加工分野を中心に、中国におけるロボットおよび自動化システムの展開を図るものです。

新会社の資本金は700万元（約1.3億円）で、預立500万元、安川電機中国100万元、旭興産100万元の資本構成です。なお、社名の「預立興川」は中国企業および日系2社の社名の一部を取ったもので、「機器人」は「ロボット」のことです。

新会社には、安川電機中国のロボットを用いたバリ取り研磨システム、上海愛来音の自動化システム、預立の機械関連の測定器など各社の技術・製品を持ち寄り販売します。更に、新規に機械加工用の高剛性ロボットを安川電機中国と旭興産の技術を用いて新たに開発し、機械加工分野を中心に展開します。

新会社は11月にも業務を開始するため、上海愛来音の主要メンバーは新会社に移り、旭興産からは日本人機械技術者1名が出向します。なお、技術部門は上海市松江区的鑛翎機械工業内に置き、本社および製造部門が安徽省馬鞍山市になります。

今回の措置は、円安などのため、中国での日系企業の設備投資があまり期待できないこと、および中国の国策としてロボットが取り上げられ、ロボットに対する投資が中国企業主体となってきたことに対応しています。中国は、既に世界最大のロボット市場ですが、潜在的な市場は非常に大きく、今後ロボット市場の急速な拡大が見込まれています。これに対応するためには、中国の業界に詳しい企業との合弁企業が望ましいことから今回の新会社設立となりました。

新会社は3年後1.3億元（約25億円）の売上を計画しています。